

## オンライン授業に対する意見について

### 【ご意見・ご要望】

別添参照。

【回答】（回答日：2021年4月21日）

（回答部署：教育推進・学生支援部教務企画課）

このたび、4月19日に「新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う活動制限のガイドラインにおける対応レベルの変更について」が発出され4月22日から対応レベル2(-)に引き上げられることとなりました。

今年度、対面授業を基本としてスタートしたところではありますが、皆さんが安心して学業に専念できる学修環境を整備するために授業の実施方法を見直し、講義科目については4月22日（木）頃より5月12日（水）までの間、原則オンライン授業に切り替えることとなりました。ただし、演習・実験・実習科目等は開講部局の判断により、感染予防対策を徹底しながら対面授業を継続できることとしています。なお、様々な理由から授業へ出席することが困難な場合には配慮を引き続き行っています。

今回はこのような措置をとることとなりましたが、期間終了時に状況が改善されれば速やかに対面授業に戻し、本来の学生生活を過ごしていただきたいと考えています。

対面授業及びオンライン授業には色々なご意見があることは認識しています。

本学は、大学内の感染だけではなく、現在の感染拡大の状況をみると人の流れを減少させ、大学外でも学生のみなさんが、感染症の予防について正しく理解をし、自分が感染しないという自覚、他人に感染させないという思いやりを忘れず、大学生として責任を持った行動をとっていただくこと、それを啓発することも大学の役割、社会的責任であると考えています。

今回の対応にご理解いただくとともにご協力をお願いします。

【No. 1】（投稿日：2021年4月12日）

現在、新型コロナウイルスへの対応のレベルが1になっておりますが、明らかに感染の波が差し迫っているにも関わらず、レベルの変更をしないのはなぜでしょうか。収束するまではレベルを引き上げたままにすることを希望します。対面よりもオンラインの方が授業の質が必ず落ちるとするのは、固定観念であるということを理解してください。去年と比べて状況は全く改善していないどころか悪化している時にわざわざ学生を集め、感染の機会を与えていると言わざるを得ません。

【No. 2】（投稿日：2021年4月16日）

本日、京都府知事から、教育現場に対しコロナウイルス感染予防対策を強化するよう要請があったと、報道で聞いております。統計上でも若年層の感染者数は際立っており、そのような要請がなされるのはやむを得ないと言わざるを得ませんが、一つ、一大学生として要望がございます。

今後授業がオンライン化されるにしても、大多数の授業のオンライン化といった、極端な策をとるのをやめていただきたいのです。

2020年後期の授業で、対面とオンライン授業の併用という方針が京大当局から発表されたことを記憶しておりますが、実際対面になった授業は全学共通科目で数十に過ぎず、専門科目でも理系学部の実験、実習授業や、文系学部では実習科目が対面授業になったのみでした。私は当時二回生で、後期は11, 2コマほどとったのですが、そのうち対面になったのは一つのみ、しかも12月からという状態でした。

感染の小康状態だった3月を経て、キャンパスライフの復活を願っていた身としては、昨年後期のような肩透かしはもう経験したくありません。

全学生を、学籍番号が偶数か奇数かで分類し、それにより対面授業を受けられる週を分け（5月第一週は偶数、5月第二週は奇数といったように）、全学共通科目か専門科目かに関わらず全ての授業をハイブリッドで実施し学生を先述の分類に従わせるという方法もあると考えます（全授業でどの番号の者がいつ対面授業を受けられるかを統一しないと、一日の中で対面授業とオンライン授業が混在し結局学校に来ないといけなくなるので、構内の人間の量が減りません）。こうすると、少なくとも入構する学生数は約半分になります（間違っただけで学校に来てしまった学生には帰ってもらえばよいと思います。しかし誤りを防ぐべく受講に関する告知を入念にせねばならないとは思いますが）。

実際に4月初旬の授業のガイダンスを、学籍番号が偶数か奇数かで回を分けて実施し密集を回避させた教授もいらっしゃいました。

このオンライン授業か対面授業かという方針の二転三転には、金銭面で昨年一年間影響を受けました。実家住まいの学生にとっては、定期券が無駄になったり、下宿生にと

っては、いつ対面になるか情勢が読めないのが、オンライン授業なのにもかかわらず京都にい続けなければならないといった事態が起きました。その間の賃貸の費用や光熱費などは少なからぬものです。

今年、理学部では学部科目のオンライン化が4月も目前に迫った時期ようやく発表されたと聞いています。京大当局には、すでにオンライン授業による学生への精神面での影響については事情が認知されているだろうと思いますが、大学の動向が学生の経済的状況にどう影響を与えるかという視点が欠けている気がしてなりません。方針の告知時期と言いつつ、あまりに気まぐれで唐突なので、振り回され金銭を無駄にした学生も多くいるのではないのでしょうか。

私も定期券など新学期への準備を進め、下宿生も対面授業を受けるために京都にいます。それならば最大限対面授業を受けたいと考えるのが自然ではないのでしょうか。

このような学校運営に関する提案を意見箱に投稿して、聞き入れていただけるかはわかりかねますが、少なくともこのように考えている学生がいることはご理解ください。

長文失礼いたしました。

#### 【No. 3】（投稿日：2021年4月18日）

現在京都府は大学にオンライン授業するように要請を出しており、数日後にも京大当局からオンラインへの移行の連絡が来ると思われるが、オンライン要請は学生差別である。府議会の公式 Twitter を見るに学生だけにオンラインへの移行を含めた自由権の侵害とも言える自粛要請が出されており、他の世代に同様の要請が出されていないことから明らかである。またオンライン授業による感染防止効果は不明であり、オンライン授業への移行は筋が通らず、学生に不自由を強いる以外の効果は無いと考えられる。京大当局にはこのような学生差別に加担することの無いよう要請する。この要請は我々学生の基本的人権を守るための要請である。

#### 【No. 4】（投稿日：2021年4月20日）

ここ最近の感染症拡大に伴う授業のオンライン化について意見があります。

4月半ばに入ってから関西では新型コロナウイルスによる感染症が再び拡大し、16日には京都府から大学の授業のオンライン化を進めるよう要請があったと伺っています。恐らくそれに伴い、京都大学も「新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う活動制限のガイドラインにおける対応レベル」がレベル2（－）に引き上げられ、多くの授業がオンラインに移

行すると発表されました。

しかし、この授業方針の変更は本当に必要なのでしょうか。文部科学省からは対面授業を維持するよう指針が出ており、また京都府が大学のオンライン化を求める際に指摘した大学生が新規感染者の13%を占めるという点について(参

照:<https://mainichi.jp/articles/20210416/k00/00m/040/191000c>)も、京都府や京都市の学生人口を考えると突出して多いとは言えません。このような状況下で、授業方針変更が感染拡大防止に与える影響は限定的ではないでしょうか。

更に、学内での感染拡大を防ぐために授業前後の消毒や教室の定員削減、席番号記録、食堂や図書館へのアクリル板設置など様々な対策を講じたのではなかったでしょうか。これだけの対策をして感染拡大を防止した上で対面授業を再開していただいたことには本当に感謝しています。それ故に今回のオンライン化の措置が疑問でなりません。

勿論、高齢の家族と同居していたり、自身の不安が拭えないなどの理由から大学に足を運ぶのが不安という学生もいるとは思いますが、そのような学生に対しての配慮は今回の授業方針の変更以前からあったはずで

京都大学の教育理念である「対話を根幹とした自学自習」に基づいた対面授業、そこで先生方から受ける影響、学生同士で刺激を与え合う環境、それらが失われるに足るだけの成果がこのオンライン化で得られるのでしょうか。

大学にとっては、我々学生は毎年入学しては卒業していく学生たちの中の数世代に過ぎず、このオンライン授業も京都大学の長い歴史から見ればたった一瞬なのかもしれません。しかし我々学生にとっては、一度しかない人生の、4年間しかない学部生活の中の数年なのです。今しかないんです。

今回の授業方針の変更についてそれによって期待される成果と失われるものを冷静に天秤にかけ、我々学生に寄り添った授業方針となるよう再考していただきたいです。よろしくお願ひ致します。